

謹啓 寒さ厳しき折、皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、この度、荒木正介先生には、平成二十七年三月末日をもって定年退職されることになりました。

荒木先生は、昭和四十三年四月に京都大学理学部にご入学され、昭和四十九年三月にご卒業、引き続き同大学院理学研究科生物物理学専攻に進学され、昭和五十四年理学博士の学位を取得されています。昭和五十三年に自治医科大学に助手として採用され、平成元年に医学博士を取得、その後、J-T生命誌研究館主任研究員、京都府立医科大学教授を歴任され、平成十年に奈良女子大学理学部生物科学科に教授として着任されました。以来十七年にわたり教育、研究の両面にわたって奈良女子大学の発展に貢献して来られました。

荒木先生は、脊椎動物の脳にある松果体の発生と分化、ニューロン特異タンパク Neurexin の神経突起伸展機能に関する研究、視細胞分化とその調節因子に関する研究など、一貫して脊椎動物の神経系の発生と分化の調節機構について研究して来られました。なかでも、奈良女子大学で新たに組み込んだ両生類の網膜再生機構やニワトリ胚を用いた眼胞発生機構の研究では、細胞生物学、分子生物学の手法や胚操作、組織培養の技術を駆使され、独自の成果を挙げられています。先生の研究は国内に留まらず、ドイツの Darmstadt University of Technology の客員教授を勤められるなど海外の研究者との共同研究を行い、ご自分の研究をグローバルに展開されて来られました。先生の研究室には絶えず海外の研究者が訪れ、学生を交えた熱い議論が展開され、常にアカデミックな場所となって来ました。

教育面では、学部、大学院の多くの授業を担当され、厳しい中にも温かく学生を指導して来られました。学生主催のバレーボール大会や学科忘年会にも気さくに参加され、学生と一緒に演劇にも出演されて、お茶目な姿も披露してくださいました。先生の研究室を卒業した学生は社会で多く活躍していますが、卒業しても先生を慕って研究室を訪れています。学生達も、先生の常に真剣に研究や教育に取り組む姿勢から、厳しさとともに温かさを感じ、先生の研究室の門をたく学生が後を絶ちません。

また、荒木先生は平成十九年から二十三年まで評議員として大学運営にも貢献されました。一方で、学生がよりグローバルな視点をもつようにとの思いから、レスター大学との国際交流事業にもご尽力され、毎年両大学の学生と教員の活発な交流が実現しています。

荒木先生のこれまでのご功績をたたえらるとともに、先生のご健康と今後のご研究の一層のご発展を願って、退職記念講義および退職記念会を企画いたしましたので、何卒ご出席賜りますようお願い申し上げます。

謹白

平成二十七年一月吉日

荒木正介先生退職記念事業会発起人代表

奈良女子大学理学部生物科学科科长

保 智己

記

退職記念講義

日時 平成二十七年三月七日(土) 十四時から十五時三十分
場所 奈良女子大学G棟 一〇一教室

退職記念会

日時 平成二十七年三月七日(土) 十六時から十八時
場所 奈良女子大学生協食堂
会費 五千円(記念品代を含む)

誠に恐れ入りますが、準備の都合上、記念会に出席の可否を左記連絡先に電子メールにて二月十日までにお知らせください。会費送金は、二月二十日頃までに下記の口座にお振り込みください。振込受領書を持って領収書に代えさせていただきます。

振込先 奈良女子大学生物科学事業会

ゆうちょ銀行 記号14580 番号5166551

(ゆうちょ銀行以外の金融機関からお振り込みの場合)

店名 四五八(読み ヨングハチ) 店番 458 普通預金 0516655

連絡先

奈良女子大学理学部生物科学科 安田 恵子

〒六三〇 八二六三 奈良市北魚屋西町

電話 〇七四二(二〇)三四一二

電子メール ponko@cc.nara-wu.ac.jp

発起人

岩口 伸一	鍵和田 聡	佐伯 和彦	酒井 敦
坂口 修一	佐藤 宏明	杉浦 真由美	保智己
奈良 久美	西井 一郎	春本 晃江	安田 恵子
遊佐 陽一	吉川 尚男	和田 恵次	渡邊 利雄

(五十音順)